



キャリアデザインセンター



進路支援センター

センター



ラーニングセンター will



実習サポートセンター

CONTENTS

2022年度 聖句

「キリストの言葉があなたがたの内に
豊かに宿るようにしなさい。」

(コロサイの信徒への手紙 第3章 16節)



保育・福祉系の授業研究会の開催	2
シリーズ研究室紹介⑤	3
オータムフェスタ、TOPICS	4
卒業生の活躍	5

保育・福祉系の授業研究会の開催

入試広報部長 教授 松山 洋平



2022年6月7日、8月23日に、小・中・高等学校の教員と、幼稚園・保育園・認定こども園等保育施設の保育者と、相模原市の保育課や教育委員会の方にもご参加いただき、「保育・福祉系の授業研究会」を保育現場との連携の方法についてというテーマで開催しました。

この研究会は本学と高等学校校長との教育研究会において共有された。高校での学びの発展のための連携及び、高校生のキャリア形成のための連携の必要性から生まれた「家庭科・社会科・総合学習科目等を担当する先生方との研究会」として昨年度までに13回行われてきたものです。

今年度より、高校教員に加えて、地域の保育や子どもを取り巻く学びや連携のニーズに対応するために小学校・中学校との連携も視野に入れて開催すると共に、幼稚園・保育園・認定こども園等との具体的な連携を進めていくために、保育施設の教職員にもご参加いただきました。

6月7日(火)は、「保育現場での体験授業実施の方法について」として、認定こども園モモ園長の神尾美香子先生に令和元年度の鶴野森中学校家庭科授業との連携授業の事例報告を実践提案としてお話しただいて、多様な世代が身近な人

と触れ合うことや心動かされる経験が起ることの大切さを学びました。

8月23日(火)は、RISSHO KID'S により園長の三上祐里枝先生に「子どものつぶやきから始まる保育展開」として5歳児の声から街と繋がり探究を深めていく実践を提案していただきました。子どもがやってみたいと思う事柄について保育者も共に保育内容を創造していくこと、園外の本物の世界と子どもをつなげていくコーディネートの必要性を学びました。

どちらも、小中高の授業と保育所・幼稚園・認定こども園等との実際の連携の方法やその授業展開について考えました。参加いただいた先生方とのグループ

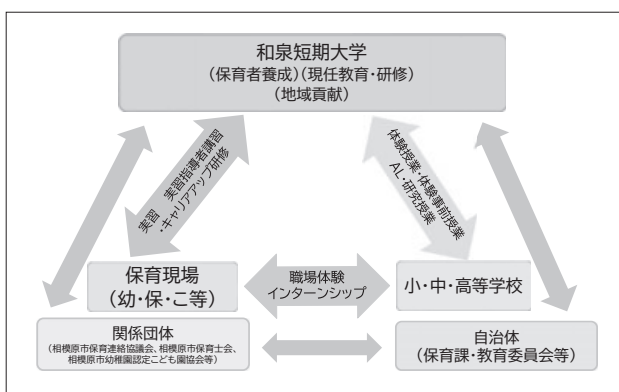


セッションでは、普段なかなか交流がない高校の家庭科の先生、小学校の先生、保育施設の園長先生、担任保育者、自治体の職員、保育学が専門の大学教員などが交流する場となり、それぞれ実態はどうなっているのかについて質問し合う場面が印象的でした。お互いの思いが共有されたことよって、この会でのつながりが今後の新たな保育や教育の展開を予感させる場となりました。

現在、和泉短期大学を含めた保育者養成校や保育現場は大きな問題を抱えています。第一に、18歳人口の急激な減少や保育志望者の減少による入学者数の減少と、保育施設での保育士・幼稚園教諭(保育教諭)の人材不足です。第二に、保育の質の向上に向けた取り組みの実施と、それと連動した現在の保育へのネガティブな評価の払拭や不安の声の解消です。第三に、高等学校・中学校・小学校でのアクティブラーニングや社会に開かれた教育課程への対応、保育分野との一層の連携です。

『採用と育成の好循環を生み出す園長の仕事術 子ども主体の保育を実現するリーダーシップ』
「実習を通してみえてくる課題と展望」中央法規 2020 (pp.36～53) 松山洋平 参照

それぞれの教育・保育の場での閉塞感を払拭するためには新たな取り組みが必要です。そのためには下図のような連携が欠かせないと考えています。



和泉短期大学の持っている知見を地域に還元していくことは言うまでもありません。今後は保育・福祉分野において、多様な人々の参加によるネットワークのハブになる提案を行い、園・自治体関係者・保育者養成校・小学校・中学校・高校・地域の施設や人々等の多様な方と共同して、子どもや保育を取り巻く課題解決に取り組みための役割を押し進めたいと考えています。この取り組みをきつかけとして、子どもの経験を豊かにする実践と連携が生まれ、さらに保育の魅力や専門性が外部の方(生徒児童・保護者・教員・地域等)に伝わるようになってほしいと考えています。

シリーズ研究室紹介⑤

教授 井狩 芳子

私は、音楽が好き、活発で好奇心旺盛という自身の特性を最大限生かすべく、保育者を目指して大学に進学しました。大学3年時の、社会教育学という選択授業で、恵那の教育（長野県恵那地域を拠点にした地域医療に取り組んだ医師の足跡紹介）というドキュメンタリー映画に出会い、医療という視点を介し地域の教育・福祉・雇用など、地域住民の生活全般の質の向上を図った医師の存在を知りました。それから45年、私は恒常的に複数の案件を抱えながら仕事を進めてきたように思います。



本学における職務の一つに、地域連携推進事業が挙げられますが、そのきっかけは宗教部付きの

学生団体である「ハンドベルクワイアと聖歌隊」両チームの顧問を同時に拝命したこと（1994年～1998年頃）に遡ります。課外における学生との関わりを通して、礼拝を含む学内行事に参加しさらに依頼演奏を受ける中で、園や学校・公共機関との新たな関係が生まれ、この経験が私の地域連携活動のきっかけとなりました。

地域連携が重視される昨今、私の仕事は、専門領域である「保育内容『健康』」関連の活動を主軸に、地域の保育所や幼稚園、地元冒険遊び場の活動（子どもの居場所づくり・相模原）を通じた子育て支援や多くの団体との連携により成り立っているともいえます。果たして私は、例えばその医師のように、地に足をつけて生きてきたのか生きているのか。私は今年度末で定年退職を迎えますが、自身の未だ見ぬ未来を楽しみにしています。これから私が体験する事象が、私自身の乳幼児期、学童期、思春期、青年期、そして今に至る成人期を通して培った集大成であるならば、私は、今後出会うべく出来事を感謝して受け止めていきたいと思えます。そして、私の多くの仕事を育んでくれた研究室に感謝します。

2022年度 表彰者

眞鍋記念奨学金(前期)

児童福祉学科1年 檜本 渉里
(横浜市立みなと総合高等学校出身)



私が和泉に入学した目的は、保育士の資格を取ることでした。しかし、授業の中で先生方の考えや体験談を聞き、自分がどのような保育士になりたいのかという目標を考えるようになりました。また、今回賞をいただき、様々なことに對して全力で取り組みたいという思いが強まりました。これからは目標を明確にし、多くのことに努力していきます。

児童福祉学科1年 寺寫 小綯
(八王子実践高等学校出身)



興味を持っていた保育、福祉について、和泉短期大学で専門教育や沢山の保育に関わる実体験ができました。保育関係の仕事が現実的に近づいていると感じるとともに、新しい知識が身についていることを実感して、とても嬉しく思います。良い学びに触れる環境に感謝して、後期も一生懸命頑張りたいと思います。

児童福祉学科2年 新井 涼
(県立綾瀬高等学校出身)



この度はこのような素晴らしい賞をいただき大変光栄に存じます。2年前期には授業はもちろんのこと実習もあ

り、忙しい日々を送っておりました。渦中であって、実践を意識した学びが多く、理解が一層できたと感じています。まだまだ足りない部分もあります。学生生活も半年、後悔の無いよう日々一所懸命に邁進して参ります。

児童福祉学科2年 中畑 望華
(県立上溝南高等学校出身)



2年前期では、全ての実習を終え、これまでの学びがより具体的に実践的なものになったと感じています。そして、あらためて子どもとかわかることの楽しさや、「保育・福祉の仕事の魅力」を感じることができました。今後も、支えてくださる周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、より一層学びを深めていきたいと思えます。

専攻科介護福祉専攻 佐藤実沙季
(県立相模原総合高等学校出身)



専攻科に入学し、前期は日々充実した毎日をお過ごしことができました。また専攻科での学びは介護の現場だけではなくさまざまな場面で活かすことができると実感しています。集中して勉強に取り組める環境を作ってください先生方や家族、友人にとっても感謝しています。後期も感謝の気持ちを忘れず、介護福祉士国家試験に向けて努力していきたいと思えます。

オータムフェスタ ～学びの収穫祭～

実習サポートセンター長 准教授 矢野由佳子

コロナ禍での「いずみ祭」の代替として始まった「オータムフェスタ～学びの収穫祭～」も早いもので3回目を迎えました。実習を通じて1・2年生が交流する日として、グループで集まり実習報告会を行いました。今年度はこれまでの実習を見守ってこられた保証人の皆様に学生の成長をご覧いただくことを目的に、事前に申し込みをされた保証人の皆様に実習授業を公開いたしました。併せて、入学を志願する高校生の見学会も行い、賑やかな1日となりました。午後は「遊ぼう！キャンパスライフデイ」として事前に届け出た学生に体育館を開放し、スポーツを通じた交流の機会を持つことができました。楽しい秋の1日を記念し和泉を応援しようと、日本学生支援機構・和泉短大協賛「オータムギフト券」、学友会「ハロウィンスイーツセット」が全員に配られました。

今思い返すと、2年生は最初の実習で、コロナの感染拡大に伴う実習期間等の変更により1人ひとりが切実に感じてください、無事に実習を終えることができました。その後の幼稚園での15日間、保育所等での12日間を経て、1年生へ語る姿は自信に満ち溢れていました。特に印象に残ったのは、学生の語りです。授業で作成した教材をお守りに、実習先で自信を持って実践できたこと、実習先で質問をする時の工夫、記録の注意事項や工夫など、苦労話で終わることなく、その先に得られた学びや気づきに触れていました。まさに実習で収穫した実りを1年生へ分け与える姿に、1年生も引き込まれるとともに、私たち教員も感動いたしました。

参加した1年生からは「実習が不安だったが、先輩の話を聞いて安心できた」「年の近い先輩なので、現実味のある話を聞くことができた」「記録の書き方や実習中の過ごし方など、具体的にイメージすることができた」「準備しておくことが明確になった」といった感想が寄せられました。2年生からも「就職後にも役立つ話を聞くことができた」「“自分の実習”から“みんなの実習”へと捉え方が変化し、みんなで実習を乗り切ったことを実感した」といった感想が寄せられました。

お互いに高めあう、良い時間を持つことができたことに感謝いたします。そして、和泉で多くの実りを収穫し、保育・福祉の現場で広く役立てられることを心から願います。



TOPICS

1号館教室、廊下、階段等の照明器具をLED照明に変更

2021年度に続き、8月10日(水)～12日(金)に1号館教室、及びピアノ室、廊下、階段の照明器具(354台)をCO₂削減による環境にやさしいLED照明器具に変更する工事をしました。LED化にすることにより教室内が明るくなったことで学生の学習力がさらに向上していくと思われま。

- ・1号館教室8部屋(104・200・201・204・205・212・301教室、ラーニングセンター)(247台)
- ・1号館ピアノ室30部屋(60台)
- ・1号館廊下・階段(47台) 合計354台

なお相模原市が取り組みを進めている脱炭素社会の実現に向けた「令和4年度相模原市中小規模事業省エネルギー設備等導入支援事業」に申請して、選定されたことにより、相模原市より費用の一部が補助金として交付されます。

本学は今後もCO₂削減など地球環境への配慮に取り組んでいきます。



第23回おもちゃインストラクター養成講座開催

2022年8月26日(金)、第23回おもちゃインストラクター養成講座を開催し学生46名が受講しました。

認定NPO法人 芸術と遊び創造協会のおもちゃコンサルタントマスター 山口裕美子先生、堀江愛子先生のご指導のもと、手作りおもちゃの技術を習得するとともに、世界のおもちゃ文化を知り、日本のおもちゃの現状とその役割を実践的に学びました。

今春は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催できませんでしたが、今回は、会場での講師・受講者の「三つの密」の回避や、「人と人の距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」といった感染拡大防止対策を行い、安全に配慮しながらの開催となりました。

受講を終えた全員に、認定NPO法人 芸術と遊び創造協会より「おもちゃインストラクター認定証」が授与され、有意義な講座となりました。



普通救命講習Ⅲの講習会実施

2022年8月27日(土)、本学4号館リトミック室において、相模原市消防署緑が丘分署のご指導で、「普通救命講習Ⅲ」の講習会を実施しました。当日は、1・2年生、専攻科の学生計29名の参加でした。最初に映像で学んだ後、実技の講習会を少人数グループに分かれて行いました。

普通救命講習Ⅲは、小児・乳児・新生児を対象とした救命処置(心肺蘇生法・気道異物の除去)を習得します。保育・福祉現場に就職する学生にとって、普通救命講習はとても重要な講習会になりました。

参加した学生達は、真剣に取り組み、講習終了後に「普通救命講習修了証」が交付されました。



2022年度学校法人和泉短期大学「サンクスギビングフェア」開催

2022年10月10日(月)に、「2022年度 第3回 サンクスギビングフェア」(通算29回目)を開催しました。

イベント内容

- ・100円お弁当…「魔女のブラックハロウィンオムライス」「パンキン シチュライズ」
 - ・キャンパスコンビニ 全商品20% OFF
 - ・キャンパスコンビニ先着50名にペットボトル飲料プレゼント
 - ・キャンパスコンビニ コンビニ250円以上購入者 くじ引きによる景品プレゼント
- 100円お弁当は人気のため完売し、キャンパスコンビニも多くの来客があり盛況でした。



第10回折り紙作品コンテスト表彰式開催

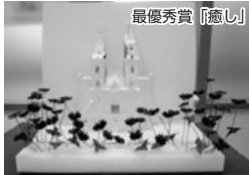
2022年10月24日(月)和泉クラーク・ホールにおいて第10回折り紙コンテストの表彰式が行われ、佐藤守男学長より入賞者に表彰状と記念品が授与されました。

学生、教職員等による投票の結果、最優秀賞に選ばれた作品は「癒し」でした。たぐさんの繊細な花と、それに飾られた聖堂の静謐な雰囲気、全体的なデザインが高評価を得ました。

優秀賞の作品は、迫力のある躍動感を持つ「龍」が細かい作りこみもあり人気でした。準優秀賞の「水族館」は、動きを感じさせる色々な水族館の生き物が可愛らしく楽しそうだと票を集めました。特別賞の「ハロウィンのリース」は、季節を感じさせる可愛い作風が評価をされました。

入賞者と作品

- 最優秀賞【癒し】(1年生)朔間真由さん、優秀賞【龍】(2年生)西井琴音さん、準優秀賞【水族館】(専攻科生)吉澤麗音さん、特別賞【ハロウィンのリース】(1年生)内林春美さん



2022年度第10回保証人会(2年生保証人対象)開催

2022年10月29日(土)に第10回保証人会を開催し2年生の保証人16名の方にお越しいただきました。今年度は、和泉短期大学初の試みとして保証人全体会後に授業参観を行い「オータムフェスタ～実習・学びの収穫祭～」(2年生が1年生に実習での学びを発表する授業)の様子をご覧いただきました。

保証人会は佐藤守男学長の挨拶ではじまり、実習サポートセンター長 矢野由佳子准教授よりコロナ禍で行われた保育・施設・幼稚園実習についての報告、学生部長山本美貴子教授よりコロナ禍の学生生活支援、就職状況について説明を致しました。保証人の皆様に本学の実習、就職活動についてご理解を深めていただく機会となりました。また、ご家庭での精神的なサポートも実習、就活中、就職内定後も大変重要であることをお伝えしました。



卒業生の活躍 (第25回)

相模原市立緑台小学校教諭

(二〇〇三年三月卒業生) 岩田 裕輔さん

私は、現在相模原市立小学校に勤務しています。和泉短期大学に入学した当初は、小学校教諭になっている今の自分を思い描いてはいませんでした。和泉短期大学に入学してから様々な人と出会い、学んだ結果が今の自分だと思っています。そして、今も学び続けているところです。

卒業してから十数年、公立幼稚園で働いていました。経験年数を重ねるにつれて、もっと幼児教育を学びたいと思い、通信制大学に通い始めました。短大という2年間では学べないことがたくさんあり、それを就職してから学ぶことで、より深い学びになったと実感しています。そして、その中で小学



校教諭の免許も取得しました。

幼稚園時代、年長児を担当していることが多く、自分が卒園させた子がどのような教育を受けているのか知りたくなり、まずは自分が小学校教諭を学びたいと思うようになりました。卒園児が通う小学校に参観に行ったり、1年生の先生方と懇談会をしたりする中で「幼児教育は、教育の種をいっぱい撒いているんだな。それが小学校教育の教科につながるんだな」と思いはじめ、その種をどう教科につなげていくのか自分でもやってみたいと思います。小学校教諭となり7年目になります。幼児教育と小学校教育をつなげるということを自分の強み、役割として今後も働いていきたいと思っています。

短大では、2年間濃密に学び、就職します。しかし、現場に出てからの方が学ばなくてはならないことが多いと思います。現場に出て、どう自分をアップデートしていくか。幼児教育も小学校教育も学び続けることは必須です。私にとって、その学びの原点が和泉短期大学であり、そこで出会った友、先生、職員のみなさんに感謝しながら、これからも成長していきたいと思えます。

2022年度 和泉短期大学プレカレッジ授業体験会を開催しました

2022年8月27日(土)に、保育士を目指す高校生を対象とした授業体験会「和泉短期大学プレカレッジ」を開催し、11校19名の生徒さんに参加していただきました。授業後は、「修了証」を交付しました。

「創造性を高めるリトミック
～心に魔法をかけるテクニク～」

(特任教授 武石宣子)

「赤ちゃん人形を抱っこしてみよう!～発育・発達を踏まえた保育～」

(専任講師 星 早織)



人事

退職(2022年8月31日付)

井上なつみ 広報渉外ユニット

就任(2022年9月5日付)

西田 有紀 広報渉外ユニット(派遣)

復職(2022年8月29日付・育児休業)

前島 麻衣 助手

昇任(2022年8月29日付)

前島 麻衣 助教

訃報

故 大下 新治 氏

(大下聖治副学長・教授 御尊父
2022年8月31日)

故 八代 好子 氏

(八代陽子准教授 御義母
2022年10月12日)

故 芹澤 昭氏

(芹澤薫庶務ユニット
(施設担当)主任 御尊父
2022年11月9日)

故 川井 玉江 氏

(川井俊幸評議員 御母室・
川井起彦評議員 御祖母
2022年11月11日)

故 木立 サチ 氏

(佐久間志保子特任教授 御母室
2022年11月25日)

主による平安をお祈りいたします。

表彰

キリスト教保育連盟 永年勤続表彰

田中孝一 学生支援ユニットサブリーダー

三好順平 学術情報ユニット主任

キリスト教保育連盟 神奈川部会 永年勤続表彰

鈴木 敏彦 教授

平塚 豊 事務局次長

曾根真理子 教育・学習支援ユニットリーダー

矢野由佳子 准教授

2022年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にあります。本学独自の愛のいずみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

募金目標金額 3,000,000円
募金募集期間 2022年6月～2023年3月(第5期)
募金金額 1□5,000円
払込方法 郵便振替口座
 □座番号 00280-6-105705
 □座名 学校法人 和泉短期大学
 愛のいずみ基金奨学金

寄付者一覧(敬称略) <2022年8月1日～2022年11月30日>

井ヶ田篤子/石川 佳代/沖津みや子/小澤加代子/川井 俊幸/岸川 洋治/雑賀えり子/戸田 美穂/中野志津江/中畑 宏幸/平塚 豊/
 深町 和哉/松岡 潤/宮本 和武/匿名希望(4件) 以上18件 280,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人
和泉短期大学 庶務ユニット(経理担当)
 042-754-1133

2022年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学院」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2022年5月に学校法人和泉短期大学は創立66年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は19,821名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げます。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2022年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

みなさまには出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業

- 1号館 学習成果の可視化システムの導入
- 1号館 教室照明器具 LED電球交換工事
- 1号館 大教室 ウイルス除去防臭装置設置工事

寄付者一覧(敬称略) <2022年8月1日～2022年11月30日>

石川 佳代/沖津みや子/小澤加代子/岸川 洋治/関口 恵太/中島 孝夫/中野志津江/中畑 宏幸/平塚 豊/宮本 和武/匿名希望(4件)
 以上14件 150,000円

募金目標金額 10,000,000円
募金募集期間 2022年6月1日～2023年3月31日(第11期)
募金金額 1 個人 1□ 5,000円
 2 法人 1□ 10,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人
和泉短期大学 庶務ユニット(経理担当)
 042-754-1133

相模原市オレンジリボン・キャンペーンに協力

11月からの児童虐待防止推進月間に先立ち、2022年10月26日(水)16:15～16:30に相模原市長を訪問し、児童福祉学科の全学生で作った児童虐待防止のシンボル「オレンジリボン」1,800個を、学生を代表して児童福祉学科2年の羽部日和さんと細谷将希さんから本村相模原市長に手渡しました。

相模原市に寄付されたオレンジリボンは、相模原市内の児童虐待通告(相談)窓口のある各区の子育てセンターや児童相談所に置かれます。また11月13日(日)に行われたSC相模原の試合の際にギオンスタジアムの入場ゲートで配布されました。

和泉短期大学は、「オレンジリボン運動」(児童虐待防止推進活動運動)に賛同しており、2009年より相模原市のオレンジリボン・キャンペーンに協力し、児童虐待防止に向けた活動に全学をあげて支援・推進しています。

2009年から毎年、11月の児童虐待防止推進月間に、本学学生が作ったオレンジリボンを相模原市こども・若者未来局、相模原市民生児童委員協議会、相模原市児童虐待いじめ防止連絡会、市内児童福祉施設の方々と共に協力して街頭配布していました。2020年度からは新型コロナウイルス感染症防止のため、街頭啓発活動は中止となっています。



本村相模原市長へ
 オレンジリボンを手渡しした様子



学生によるオレンジリボン作成の様子